

ボランティアクーディネーター ニュース-	No16	2010年2月19日
	町田市	
	学校支援実行委員会	
	実行委員長	白井 一生

支 援

特集 人・街・夢作り あったか元気 大戸小学校

昨年、12月16日に大戸小学校を訪問いたしました。一昨年は、「ふれあい広場」にお邪魔いたしました。素晴らしい飼育小屋や広場を見学させていただきました。今回は、ボランティアクーディネーターの吉田さん・牛山さん達が進めている、地域や大学との連携活動の活発さに魅かれての訪問となりました。

校長室にお邪魔し、校長先生からお話をお伺いいたしました。「2009年度 西の学園都市構想」を示され、『地域の魅力と誇りを実感する街づくり・学校づくりを目指す』その具体的な方策などを熱く語ってくださいました。

その後音楽室にご案内いただき、高校生による「ミニコンサート」が開催されました。演奏者は、大戸小学校の卒業生とその方のお友達ということでした。子どもたちにスピーチを送り、そして、演奏する姿はとても立派なものでした。子ども達もよく集中し、聴いたり歌ったりとても楽しそうでした。「こんなに演奏できたらいいなあ」という言葉も聞かれました。

演奏終了後、吉田さんにお話をお伺いしました。その間にも大学生が訪れ、本日のこれからの外遊びの方法について簡単な打ち合わせも行われるなど、ボランティア活動が定着している姿を見ることができました。



ミニコンサートを開催した高校生も原稿を寄せてくれました

大戸小で演奏をしてみても **麻布大学付属瀧野辺高校2年 山本 楓**

私がボランティア演奏をやろうと思った動機は、大戸小で司書のボランティアをしている母に「やってみない?」と誘われたからでした。そのとき、別のところでも母の紹介でフルートを演奏していて、それがとても楽しかったので大戸小でもお客さんに喜んでもらえたら・・と思い喜んでOKしました。しかし、演奏すると決めたものの何を演奏するか、どういう編成にするか、どんな人数の前で行うのかなどわからないことが多く、いろいろな方のアドバイスをもらったりしました。人数は20人ぐらい時間は30分ぐらいということがわかりました。この前のときは一曲だったのですが、今回は単独で30分なので、同じ部活で仲の良い水越さんにピアノ伴奏をお願いし、フルートとピアノの二重奏という編成に決めました。曲も小学生に人気のありそうなジブリや最近のポップスを集めたのですが、高校の定期テストをはさんでしまい、不完全なまま本番当日になってしまいました。それなのに小学生の子ども達は、演奏を聞きながら一緒に歌ってくれたり、手拍子をしてくれたり、吹いている私達も楽しくなることができました。終わっちゃったあとに次に聞きたい曲をアンケートしたところ、色々な曲を言ってくれたので、次の演奏会までに練習をして、また楽しめる会にしたいと思っています。今回のボランティアで、高校の部活では味わえない、お客さんのために演奏することや、みんなの反応を見て曲紹介を話すこと、自分たちで自分たちの演奏会を企画して準備することなど様々なことが体験できて良かったです。また、大戸小の先輩として、大戸小のみんなが喜んでくれる演奏をしたいと思っています。

大戸小学校 **ボランティアクーディネーター 吉田真由美**

大戸小との関わりは、生活指導補助者を経て4月には5年目を迎えようとしています。元々、保育士として自らの社会人第一歩を踏み出したこともあり現在に至るまで、子育てや教育に関しては興味、関心の深い所となっています。又、子ども達を一人前の社会人に育てていくには家族を基本とし社会全体で育て上げるものと思いつけてまいりました。人は、一生を他人との支えあいの中で過ごし死を迎えるわけです。「思いやれる心」「許せる心」「自分の限界を決めつけずチャレンジしていく心」社会の一員として楽しい人生を全ての子ども達が歩み続けてくれたらなと思っています。

現在、町田で一番小さな学校を「西の学園都市構想」というプランのもと「地域の人と共に元気にしていく」という強い思いをお持ちの校長先生をはじめ、諸先生方との日々を過ごさせて頂いておりますが、研修に参加させていただき各々の学校事情、地域事情によりクーディネーターの動きは様々であることを感じています。「人の縁の繋ぎ手であること」違いありませんが、相手を理解し感謝することが地域人材を学校現場へお迎えすることではやはり重要なことだと思っています。学校社会と一般社会のギャップも現在ありますが、何が大切かを考えて行動すればそのギャップも埋まるものと信じております。その行動が子ども達を取り巻く環境にプラスに働くことであれば何より嬉しくも感じます。

現在、大戸小には、学生ボランティアが沢山来てくれるようになりました。「本気でサッカー」・「鬼ごっこ」・「宿題を教えてもらう」時には「学校での愚痴をこぼす(単学級由)、愚痴は家庭でこぼしてた? どうやら新しいこぼし場所として子ども達が見つけたようです(笑い)」関わり合いから生まれている環境の変化は見ていて想像以上に面白いです。学生の活動ぶりに「憧れ」を持つ子ども達、近い将来を描くきっかけにもなっているようです。また、お年寄りとのふれあいでは、余裕ある優しい瞳、声の響きに見守られ安らぎを感じているようにも思います。核家族が当たり前となっている社会状況下において、コミュニケーション能力の不足が課題しされている時代。異年齢の人々が学校を拠点とし交流を持つ仕組みはどれ程大切なのかを子ども達や学生ボランティアの成長していく姿からも感じているところです。

子育てが終わってしまうと、自らの世代に固定化することは極めて普通のことですが、今の時代は「子育て真只中の親世代」への応援が必要です。地域の方々には、学校現場を理解しボランティアとして足をお運び頂けるよう、また、その活動が楽しみを生むことを知って頂けるような工夫、お声掛けをしていきたいと思っています。

昨年10月からは、私のよき理解者として牛山クーディネーターがともに歩み始めてくれました。二人になった事で発想の幅も広がります。クーディネーターとしては、まだまだ力不足な私ですが、大戸の街の皆様と共に子ども達を支える一員で在りたいと思っています。

ボランティアに参加して **麻布大学付属瀧野辺高等学校2年 水越 菜那**

今回、フルートの山本さんの伴奏としてこのボランティアに参加しました。動機としては、私は将来福祉関係の仕事につきたいと思っています。なので、ボランティアや支援団体にとっても興味がありました。そのことを知っていた同級生の山本さんから、このボランティアに誘っていただき、今の自分にも何か出来ることはないかと思い、参加することにしました。

演奏では緊張してしまいましたが、大戸小学校の子ども達が山本さんのフルートにのせて歌を歌ってくれたり、手を叩いてくれたりとても楽しく演奏することが出来たと思います。大戸小学校の子ども達も、楽しんでいただけたのではないかと思います。

そして、ボランティアを通して、もっと自主的にボランティアに参加して、たくさんの人たちとふれ合っていきたいと思いました。

今回お話いただいた、山本さん、大戸小学校の皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。

大戸小学校（大学生ボランティア）

東京家政学院大学

1年 佐野 柚生子

大戸小学校の放課後活動に通うようになったのは、所属しているサークルの先輩の誘いを受けたことがきっかけでした。もともと子どもは好きでしたが、これまで子どもと関わる機会があまりなかったので、子ども達と遊べるということは、本当に嬉しいことでした。

それからの毎週水曜日は私にとって欠かせないものとなりました。みんなと接していく中で、それぞれの豊かな個性を発見したり、友達と助け合える優しさ、思いやりの気持ちをちゃんと知っているのを感じたり。そんなみんなから私は、色々なことを学び共に成長でき、とても良い経験が出来ていると思います。

また、みんなからももらったたくさんの笑顔、元気、小石であってもどれも温かい大切な宝物のように感じています。これからも大戸小学校のみんなと楽しく心に残るような素敵な放課後活動になるよう過ごしていきたいと思っています。



法政大学

梶田 真迪子

私は今、町田市にある大戸小学校でボランティアをしています。

このボランティアは、私にとって人生初のボランティアでしたから、最初は戸惑ってしまう一面もありました。ですが、今となっては、「ボランティアに対する意識が大きく変わった」と感じています。

以前は、「何かしてあげたい。」でしたが、「一緒に何かしたい。」に変わったのです。これは、相手に一方的に自分が出来ることをするのではなく、小学生はもちろん、ボランティアに関わった人全員と一緒に、何かをしたいということです。ボランティアは、普段ならばまったく接点がない人と出会うことが多いです。特に、普段あまり関わる事ができない人と一緒に何かをするということは、相手から多くを学べる機会であると思います。楽しくボランティア活動をさせてもらっています。



2009.12.18 ボランティアコーディネーター研修会

